

## 栄養のバランスが人間と違います



ねこはもともと肉食性の動物なので、犬にくらべて、たんぱく質や脂肪を多く含むフードを与える必要があります。また、人間や犬は体内でタウリン（アミノ酸の1種）を作れますが、ねこは作れないので、タウリンが十分に含まれたフードを与えないと、目の障害や心臓疾患を引き起こしてしまうこともあります。

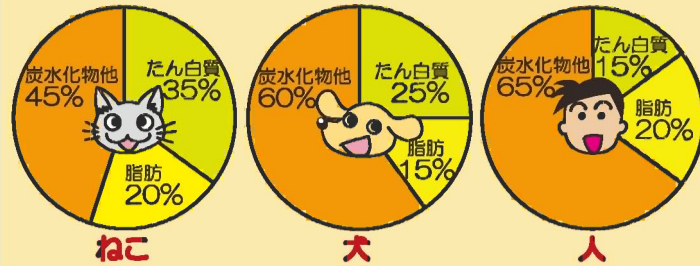


犬は雑食性の動物なので、必要な栄養素は比較的人間の食事と似ています。しかし、たんぱく質などは人よりも多く必要とします。



犬やねこは、人間と違って、余分な塩分を汗によって体の外に出すことができないため、人間と同じ食事を与えると、塩分の摂取量が多くなり、心臓や腎臓に負担をかけてしまいます。

また、人間が当たり前前に食べている食品でも、チョコレートやネギ類など、犬やねこでは中毒を起こすこともありますから注意が必要です。



必要な栄養素（エネルギー源）

## 与える量や回数にも気を配りましょう



必要なフードの量や回数は、品種、年齢、性別、健康状態、運動量など、個体ごとに違います。市販のフードには、与える量や回数の目安が示されているので、参考にしましょう。そして、ペットの体調や体形の変化（この頃、太ってきた、やせてきた）などをよく観察し、状態に合わせて調節しましょう。



子犬や子ねこは、生後約1年でおとなになります。この間の急激な成長をささえるため、おとなの犬やねこに比べて多くのエネルギーが必要です。1回にたくさん食べられませんから、高エネルギーのフードを1日3～4回に分けて与えるようにしましょう。



高齢\*になると、必要なエネルギーや消化機能が低下してきます。低カロリー、低脂肪で良質なたんぱく質を含んだ消化のよいものを、体調に合わせて与えましょう。腎臓の働きも落ちてきますので、塩分の摂りすぎにも注意しましょう。

※犬やねこの7歳が人間の50歳前後と同じくらいです。

## 市販のフードを与える場合



犬やねこ用のペットフードは、その目的により、「総合栄養食」、「間食」、「その他の目的食」に分かれています。目的とライフステージにあったフードを選びましょう。

総合栄養食	このフードと水だけで必要な栄養素がまかなえる製品
間食	おやつとして与える製品
その他の目的食	特定の栄養素やカロリーの補給などを目的として与える製品

たとえば、いくら「間食」を好きでも、それだけを与え続けると栄養が偏ってしまいます。人間がおやつばかり食べているのは、健康を保てないのと同じです。

## 手作りのフードを与える場合



手作りフードを与える場合には、犬やねこの栄養必要量、与えてよい食材などをよく理解したうえで、たんぱく質、脂肪、炭水化物やビタミン、ミネラル量などの栄養バランスに注意しましょう。あなた自身が、犬やねこの栄養士なのですから！

## フードの賞味期限や保存方法



市販のフードには賞味期限や保存方法が表示されています。これらをよく確認し、製品にあった方法で保存しましょう。また、開封した市販の缶詰やレトルトフード、手作りフードなどが余ってしまった時は、人間の食事と同じように、必ず冷蔵保存し、早めにご与えましょう。逆にドライフードを冷蔵保存すると、取り出した時に結露し、カビの原因になる事があります。